

マングローブ植林を題材として、地球温暖化防止や生物多様性について学ぶ

10月18日に東京海上日動火災保険株式会社の方々による、2年生の理科の特別授業を行いました。マングローブという植物の植林について勉強しながら、環境について考えることがねらいです。持続可能な社会づくりに向けての学習に関連付けて、意欲的に臨むことができました。

講師の方々の会社では、これまで20年以上も、世界の様々な地域でマングローブを植える活動を続け、地球環境を後世に残す取組を行っておられます。今までに植林したのは、ディズニーランド200個分の広さにもなるそうです。

地球温暖化はなぜ起こるのか。世界各地で様々な生きものが危機にさらされている。どうすればそれを食い止めることができるのか、お話を聞いて考えました。マングローブは、光合成するときにたくさん二酸化炭素（温室効果ガス）を取り込んで酸素を放出し、これに温暖化を抑える効果があることを知りました。マングローブの周りは海の生き物が安心して暮らせる「命のゆりかご」になり、実際に植林をした地域では、カニがたくさん取れるようになったという現地の人のお話も聞きました。地球の温度が上がっているということは、私たち自身の命にもかかわる問題であり、これからの学習をとおして、さらに多くのことを知り、行動しなければいけないことを実感しました。

地球環境を守るために自分たちにできる身近な取組について考えました。1点目の考えるヒント「私たちにできること」については、「ごみを持ち帰って分別して捨てる」「水筒を持ち歩く」「野菜は切れ端まで料理に使う」などを、それぞれ一生懸命考えて発表しました。2点目の考えるヒント「自然を大切にすること」については、ごみを燃やすと二酸化炭素が出るので、「ごみを減らすこと」の大切さを考えました。「自然を大切に植物を育てる」ことが地球の温暖化を止めることにつながることを知りました。

3人の講師の方々が、生徒に質問を投げかけてくださり、生徒も楽しんで参加しました。記念に、紙製のエコファイルを全員にいただきました。もともとはプラスチックだったものを、自然保護のために紙に変えたそうです。『私たちのエコ宣言』をそれぞれの生徒が考え続けていくことが宿題です。これからの行動に活かしていくための貴重な学びの機会となりました。

